

3 改善のポイント

POINT 1

- 名刺作りだけでなく3班に分け、各班ごとに使用教室を分けました。



<名刺班>

情報をデータベース化して文字入力の時間を短縮し、印刷、裁断の工程を一人でできるようにしました。



<リサイクル班>

裏紙のリサイクルを行い、生徒の得意なことを生かして押印や用紙の分別をしました。

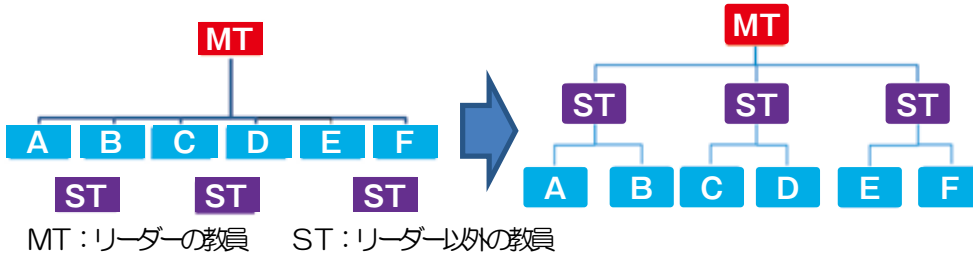


<事務班>

経営企画室と連携して、挨拶、受注を行い、分担や手順は生徒同士で決めるようにしました。

POINT 2

- 作業内容を見直し、授業担当教員の役割を明確にしました



各班担当の教員が責任者となることで、生徒一人一人の作業状況を適切に把握できるようになりました。

担当の役割がわかったので、納期を意識しながら作業に取り組んでいます。車椅子で教室内の移動が出来るようになったので、一人で出来ることが増えました。



【Eさん】

4 授業者がわかったこと

- 一人一人の活動量が増え、納期や作業目標があることで、友達同士で会話をしながらデザインをしていた生徒が集中して作業に取り組むようになりました。
- リーダー以外の教員が各班への指示を適切に行うことで、リーダーの教員は作業全体の進行管理が出来るようになり、作業が滞ることがなくなりました。



仕事への意識を高める環境整備

<中・高の連携>

1 授業改善の視点



【Fさん】

「作業学習」って何をするのかな？
色々な「もの」を作ったりするから、
美術の作品作りと同じかな？

- 中学部、高等部ともに作業学習が「作品作り」になっており、「仕事」を意識する環境となっていません。
- 担当する教員によって、作業内容が変更されるので、生徒は達成感や見通しをもちにくいようです。仕事への意識を高めていきたいです。



2 専門家からのアドバイスと改善の方策

- 振り返りの時間では、「できました」「頑張りました」ではなく、目標に対して前回よりどのくらいできたのか、生徒自身が分かるように日誌等の工夫をしましょう。
- 「仕事」を意識しやすいように、作業学習ではネームプレート等を着用しましょう。教員も見えるように着用しましょう。
- 生徒も、教員も「時間」を意識できるよう、タイムカードを導入してみましょう。

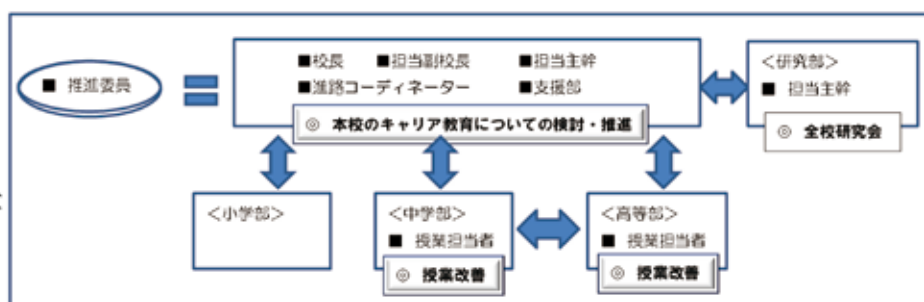
3 改善のポイント

POINT1

- 全校の課題として校内組織の見直しを図りました。

- ・学部間の接続
- ・教育課程の改善
- ・作業内容の検討

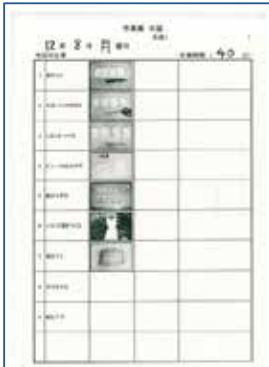
☆授業担当者任せにしないことが大切です。



POINT2

- 達成可能な具体的な作業目標を設定するとともに、作業日誌を中学部・高等部ともに見直し、生徒が自分で記入できるようにしました。

中学部



中学部は工程表を活用した日誌とし、高等部は現場実習とリンクした日誌を利用しました。次回の目標が立てやすくなり、生徒自身で報告が出来るようにしました。



高等部

作業学習 日誌	
平成 28年 月 日 大曜日	
出席者	
仕事のできた報告をする	
1. 仕事の時間 (開始時刻～終了時刻)	
2. 仕事の内容 (作業の種類、配属、作業内容)	
3. 仕事の進捗状況 (進捗率、遅延の有無)	
4. 仕事の感想 (良かった点、大変だった点)	
5. 今後の目標 (次回の作業に対する目標)	
6. 先生からの指導 (先生からのアドバイス)	
7. 自己評価 (自分の作業に対する評価)	
8. その他 (作業に関するその他の事項)	

POINT3

- 中学部と高等部とが連携して、継続的な指導を行いました。



中学部 (紙工)

中学部と高等部が同じ「紙」をテーマに連携をすることで、高等部への期待をもてるようにしました。



高等部 (名刺)

POINT4

- タイムカードの利用、ネームプレートの着用を徹底しました。

「始業」への意識が高まり、生徒自身が「遅れない」ように工夫したり、言葉遣いを意識したりするようになりました。



4 授業者がわかったこと

- 教員が時間の意識や言葉遣いなどの見本となることで、生徒の仕事への意識が高まりました。
- 挨拶や依頼の方法など、作業学習で身に付けた力を他の教科等の学習場面でも発揮できるようになりました。
- 中学部と高等部を中心に、全校の教員が連携・協力したことで、授業改善を進めることが出来ました。



見通しをもって活動するための環境整備

改善事例7

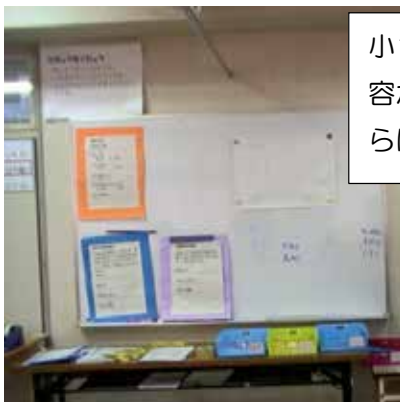
<リサイクル>

1 授業改善の視点



【Gさん】

打ち合わせが終わったけれど、自分が今日やることはこれでいいのかな。先生に聞かないと分からないな。



小さな字で今日の作業内容が書かれており、生徒からは見えません。



自分の作業は終わりましたが、全員が戻ってくるまで待っています。

- ホワイトボードに全ての情報が提示されているので、生徒がどこを見て確認すれば良いかが分からず、実際に作業を始める時には周りの教員に聞いて確認しています。
- 一つの活動を終わってから、次に何をするのが分からないので、指示があるまで待っている事が多いです。



2 専門家からのアドバイスと改善の方策

- 口頭での説明が長ならないようにホワイトボードに掲示するものを工夫しましょう。
- 教室内の配置を見直し、生徒が準備や片付けを自分で出来るようにしましょう。
- 分担ごとに生徒のリーダーを決めて、生徒同士で声を掛ける機会を設けるようにしましょう。

※教員の関わり方

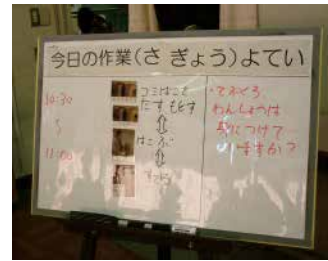
- 授業のリーダーの教員だけでなく、授業に関わるすべての教員が活動内容を共通理解し、生徒に端的な指示を出すようにしましょう。
- 教員から生徒に聞くのではなく、生徒の問いかけに応じて答えるようにし、生徒から伝える場面を設定するようにしましょう。

3 改善のポイント

POINT 1

- ホワイトボードの掲示方法を変更しました。

あらかじめ分担を掲示し、欠席等があった場合のみ、担当を確認するようにしました。



POINT 2

- 作業を終えて教室に戻ると、次の活動が分かるように教室内の配置を見直しました。
 - ①教室に戻る。
 - ②帽子等を脱ぐ。
 - ③振り返りシートを記入する。

教室に戻ると先生の指示がなくても振り返りシートに記入することが出来るようになりました。



POINT 3

- 作業リーダーを決め、生徒同士で声をかけ合うようにしました。

作業リーダーになった生徒は、役割を意識して他の生徒に積極的に声をかけるようになり、友達同士で確認し合う場面が見られるようになりました。

★作業リーダーの主な役割

- ・出発前の人数確認
- ・職員室でのあいさつ
- ・グループ作業の終わりの呼びかけ

自分のやることが分かったので、その都度先生に聞かなくても作業ができるようになりました。困ったときには作業リーダーが近くにいるので相談するようにしています。



4 授業者がわかったこと

- 生徒同士で確認しながら活動できる場面が増え、生徒一人一人がより主体的に作業に取り組めるようになりました。
- 指示や提示の方法や、生徒の動線を考慮して環境を整理することで、生徒が待っている時間が少なくなり、見通しをもって動けるようになりました。



一人で作業が出来る工程の工夫

改善事例8

<陶芸>

1 授業改善の視点



【Hさん】

型に沿って粘土を切っていますが、車椅子では手が届きにくく曲がってしまうので、先生と一緒にやらないと上手くできません。



■ たたら板を皿の形に切る工程

- ① 直径約30センチの洗面器を型にして、周りを切り針で切る。
※切り針が斜めにならないようにする。
- ② 切り取った円形のたたら板のふちをなめす。
※ふちをなめす際には力を入れすぎない。

■ 生徒が一人では出来ない工程が多いので、多くの支援が必要になってしまいます。生徒が主体的に取り組めていないようです。

■ 生徒2～3人で1枚の皿を作っています。「生徒と教員と一緒に作る」という雰囲気が生徒にあり、教員も必要以上に支援してしまうことが多いように思います。



2 専門家からのアドバイスと改善の方策

- 一つ一つの工程を丁寧に分析してみましょう。その際、姿勢や手指の使い方、感覚の受け止めなど障害の特性としての視点を加えるようにしましょう。
- 知的障害教育部門の作業学習と連携し、利用できる補助具は積極的に利用し、生徒が「自分で出来た」と感じられるようにしましょう。
- 車椅子で作業するときの適切な作業台の高さを検討しましょう。

※教員の関わり方

- 教員の言葉かけや支援を少なくし、生徒の主体性を育てましょう。
- 生徒の名前を呼ぶ際は、年齢相応の呼び方をしましょう。